
S p r o u t

井沢あや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Sprout

【Nコード】

N4235A

【作者名】

井沢あや

【あらすじ】

太陽に恋をした。心が暖かくなれるようなショートストーリーです。空き時間にサラリとどうぞ。

私は恋をしています。この世のすべての生命に、命を吹き込む太陽に。

恋を、しています。

私が目を覚ますのは、カーテンが開かれ、あの方の光が降り注いだ時。多くの生命がそうであるように、私の一日は、太陽と共に始まるんです。

私は日中、動くこともできずに太陽を見つめ続けています。物という物もなく、決して広いとは言えない部屋で、太陽の光だけが私の喜びなんです。

けれどちっぽけな私の気持ちなど、あの遠い空の彼方まで届くはずはありません。この気持ちは、誰にも伝えられぬまま、土へと還って行くのでしょうか。

それでも私は太陽を見つめ続けることをやめません。

胸を焦がされてしまったから。

いつか、いつか窓枠に遮られたりせずに、太陽を眺めてみたい。ささやかな、それが願い。

青い空に、ぽっかりと浮かんで居るのは寂しくはないのでしょいか。独りで燃え続けることは、辛くはないでしょうか。虚しくは、ならないのでしょうか。

小さな私が大きなあなたを心配するなど、身の程知らずと言われとも仕方がないでしょうね。

私はあなたの暖かな熱が大好きで。

私はあなたの雄大な姿が大好きで。

私はあなたの美麗な輝きが大好きで。

あなたの照らすこの町並みも、窓のガラスも、私自身ですら、あなたの色に染まって居れば大好きになれたんです。

私はあなたを愛しています。

午後になり、向こうの空から雲がかかって来ました。もしかしたら一雨来るかもしれません。

太陽との間を遮られてしまつのではないかと、私はハラハラしています。

どうして雲は、あんなに厚く、濃く、太陽を隠してしまうのでしょうか。

いよいよ雨が降り出すと、私は体中の水分が干からびてしまうような思いがします。太陽の光に当たることすら叶わない自分は、何よりも大嫌いです。

外はあんなに潤って居るのに、私の心はカサカサと乾いていくばかり。

早く、早く戻って来て。

やっと祈りが通じた時には、私はすっかり弱ってしまいます。けれど不思議なことに、太陽の光に当たりさえすれば、私はすぐに元気になれるんです。これは魔法でしょうか。

私は胸を張って、再び太陽を見つめ続けます。

この幸せで暖かな気持ち、間違いであるはずがありません。

長く雨が降ったせいで、一緒に居られる時間は、あと僅かに迫っていました。

もうすぐ太陽が、一日の内最も赤く輝く時間がやって来ます。私もあなりたいたいと憧れるほどに、美しく繊細な赤に身を染めて。

顔を半分だけ出して、ゆっくり、ゆっくり名残惜しそうに、太陽は帰って行きます。

あの山の向こうで、あなたは一体何を考え、どんな夢を見るのですか？私も同じ夢が見たいと、日々思いを馳せています。

もう、夜が来ますね。

おやすみなさい。

「いけない！水やるの忘れてた！ごめんね」
夕焼けに染まる小さな窓辺に、小さな双葉は、そっと佇んでいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4235a/>

S p r o u t

2010年10月23日02時03分発行